

シリーズ『みんなの力で命と暮らしを守る
～防災計画が目指すもの』

まるごとまちごとハザードマップってなに？

今回は、国が洪水時に発表する防災用語が分かりやすく改善されたため、その用語についての説明を行いました。今回は、洪水被害を最小限にとどめることを目的に、国、県、市が本市で先行的に実施している「まるごとまちごとハザードマップ」事業などの取組みについて紹介します。《問合せ》防災安全課防災係



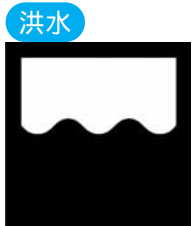
まるごとまちごとハザードマップ事業

「まちなかに洪水にかかわる情報を標示します」

平成18年7月に国土交通省から「市街地に浸水深等を標示します」まるごとまちごとハザードマップの推進」について発表されました。

これを受けて、近畿地方でも、平成19年度から本格的に実施する予定となりましたが、豊岡市内では、すでに平成18年9月から近畿地方では初めての「まるごとまちごとハザードマップ」事業が先行的に実施されています。

この事業は浸水深や避難所等洪水に関する情報を、洪水関連標識として生活空間である「まちなか」に表示することにより、日常時には洪水への意識を高めるとともに浸水深・避難所等の知識の普及を



図り、発災時には安全でスムーズな避難行動につなげ、洪水による被害を最小限にとどめることを目的としています。まるごとまちごとハザードマップ標識(略して「まるまち標識」)は、全国共通の統一的な図記号を用いたもので、「洪水」、「避難所」、「堤防」の3種類(左図参照)があり、それを市内各所に設置し、街そのものをハザードマップ化していく事業ですが、この事業には、国土交通省の他に、兵庫県と市も協働しています。市内での取組みとしては、昨年度から引き続き、国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所が中心となり、円山川下流部で、平成16年台風23号の実績浸水深および避難所の方向と距離を示した「まるまち標識」の設置を進めています。また、兵庫県但馬県民局でも、県の管理施設を利用して浸水位等の「まるまち標識」を設置しています。



「災害時避難所標示板」



旧城崎公民館に設置の「まるまち標識」

災害時避難所標示板
市でも「まるごとまちごとハザードマップ」の取組みに連携した形で、各避難所施設に「災害時避難所標示板」を2年間(18年度・19年度)で設置していきます。すでに18年度には、豊岡・城崎地域100カ所の設置が完了し、引き続き、19年度も他の地域142カ所に順次設置していくこととしています。

立野大橋の堤防下付近に設置された量水標



レベル	水位	旧名
4 (赤)	はん濫の発生 (危険)	旧名 計画高水位
3 (赤)	はん濫危険水位 (警戒)	旧名 危険水位
2 (黄)	避難判断水位 (注意)	旧名 特別警戒水位
1 (白)	はん濫注意水位 (旧名 警戒水位)	旧名 通報水位
	水防団(消防団)待機水位	

量水標の設置
現在、国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所により、立野大橋付近の堤防下等に、赤色や黄色で区分されたカラー仕様の大きな量水標(支柱)が設置されています。この量水標の設置により、降雨時の水位状況が現地から誰でも視覚的に認識できるようになるため、今後の水害対応に役立てることが可能となりました。

環境あれこれ ⑤

リサイクルよりもまず減量



環境に関する問題について、市の取組みなどをシリーズでお知らせします。《問合せ》生活環境課生活環境係

リサイクルとは

地球環境やごみ問題を語る
とき、まず最初に出てくるのが「リサイクル」という言葉です。しかし、改めて考えてみると、この「リサイクル」とは、どんな意味を持っているのでしょうか。広辞苑によると、「資源の節約や環境汚染防止などのために不用品・廃棄物などを再生利用すること」と記載されています。今回は、種類ごとにリサイクルについて考えてみましょう。

「ケミカル・リサイクル」

化学分解した後、燃料等に再利用

用することで、古新聞をトイレットペーパーに再加工したり、ペットボトルを原材料として衣類やカーペットなどを製造する手法です。

「ケミカル・リサイクル」と「サーマル・リサイクル」と3種類のリサイクル
リサイクルには大きく分けて、マテリアル・リサイクル「ケミカル・リサイクル」「サーマル・リサイクル」と3種類の手法があります。まずはこれらの違いについて比べてみましょう。

「サーマル・リサイクル」

熱エネルギーに再利用

マテリアル・リサイクルの中で、廃棄物を化学分解して原料や燃料として再利用することを特にケミカル・リサイクルと言っています。廃食用油のディーゼル燃料化、畜産糞尿や食品残渣物のバイオガス化が代表的な例です。

「マテリアル・リサイクル」

製品の原料として再利用

「製品の原料として再利用」廃棄物を原材料として再利
ごみ発電に活用することなどが代表的な例です。



「リサイクル」は

優先順位の3番目

一般的にごみを減らそうと思えば、まず最初に思いつのがリサイクルですが、実はリサイクルの優先順位は高いものではありません。私たちが目指す循環型社会では、優先順位の1番目はリデュース（注1）、2番目はリユース（注2）、そして3番目がリサイクルです。



これをレジ袋に例えると、「レジ袋は受け取らないやむを得ず受け取ったレジ袋は、何度も繰り返し使用する使用することが不可能になったら、プラスチック製容器包装としてリサイクルにまわす」という順番になります。皆さん、まず、リサイクルの前に、ごみの発生抑制に努めましょう。

注1 リデュース（ごみの発生抑制）：「ごみになる物できるだけ減らすことです。」

注2 リユース（再使用）：「製品を同じ用途に再使用する。」

ことで、代表的な例にビール瓶、牛乳瓶の再使用等があります。

交通安全・防犯かわら版

このコーナーでは、交通安全と防犯に関する情報を市民の皆さんにお知らせしています。

《問合せ》防災安全課消防安全係

車の乗り降りの仕方



お巡りさんがクマさんやウサギさんと一緒に車の乗り降りの仕方を教えています

防犯のお話



交番のお巡りさんが知らない人についていけないよう防犯について話します

このように子どもたちが事故に遭わないよう多くの方々が交通安全・防犯教育にご尽力されています。皆さんも交通事故や犯罪に遭わないよう気をつけましょう。

幼児交通安全・防犯教室の様子を紹介します

市内の保育園と幼稚園では、毎年さまざまな形で幼児交通安全・防犯教室が行われています。

教室は、警察の方をはじめ、交通安全協会婦人部や保護者の方々など、多くの皆さんの協力で実施されています。さて、今回は、めぐみ幼稚園の幼児交通安全・防犯教室の様子を紹介いたします。



横断歩道を渡るときは右手をあげます。右手がわかるよう豊岡交通安全協会婦人部の皆さんが手作りのワッペンを園児につけました